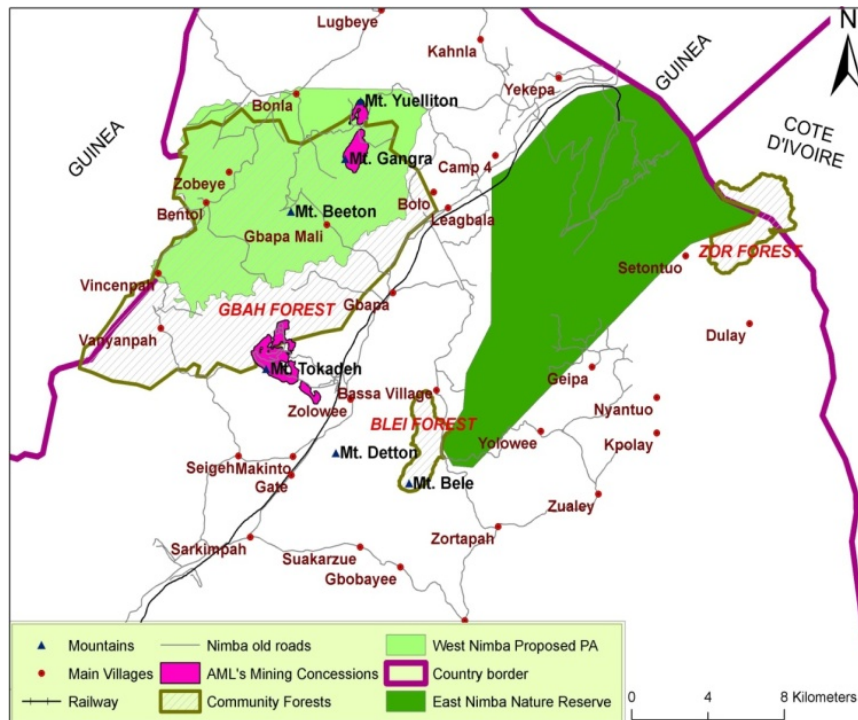


リベリア ニンバ山脈地帯森林保全プロジェクト 現地からのお便り

2014年11月
コンサベーション・インターナショナル

東ニンバ山自然保護区の紹介

東ニンバ山自然保護区は、リベリアで第2番目の保護地域です。広さは1万3千ヘクタールあり、コミュニティが保有する3つの森に囲まれ、保護区とその周りの森には、ウェスタン・チンパンジーや多くの種類のサルなどの特徴的な動物が生息しています。保護区の周りでは、36を超えるコミュニティが自然資源に依存した生活を営んでいます。長い内戦を経験したリベリアは、復興の途上にあります。現在、違法伐採、狩猟、農地開拓、そして環境配慮を欠いた鉱山開発などによる自然破壊が東ニンバ山自然保護区でも脅威となっています。リベリアの将来のためには、自然と調和した開発が必要です。



東ニンバ山自然保護区の地図（濃い緑色の部分）

プロジェクトの概要

CI リベリアは、2012年から「技能及び農業開発サービス（SADS）」、「コミュニティの権利拡大のための農村統合センター（RICCE）」などの現地NGOや森林開発局と協力し、地域の持続可能な発展に取り組んできました。そのパートナーシップと経験に基づき、私たちは、東ニンバ山自然保護区の周りで、生物多様性を守るための教育や普及啓発のための活動を行

います。また、保護区の周りのコミュニティにおいて、パイロット的な保全契約の締結を通して、コミュニティの生活と森林管理を改善します。

プロジェクトでは、以下を目標に活動を行います。

- 保全型の農業を推進し、焼き畑農業を減少させる
- 効率の高い煮炊き用のストーブとソーラーパワー施設の供給により、森林減少の要因である薪の利用を減らす
- 荒廃した地域に木を植え、森林を再生させる
- 小学校を対象とした「教育クラブ」、地元での映画上映会、ニンバ郡短期大学での「保全フォーラム」などを開催し、環境に関する意識を高める

今期の活動

今期、地元パートナー及びコミュニティと協力し、以下の活動を実施しました。

実現可能性評価を実施するパートナーの業務指示書（TOR）の作成

私たちは4つのコミュニティにおける保全契約の実現可能性評価を行うパートナーの業務指示書を作成し、その業務を SADS と RICCE に委託しました。彼らは他のパートナーとともに、保守契約のモデルを適用するための合意形成を進めています。



生物多様性保全についての普及啓発と教育の実施

私たちは、森林のガバナンスと管理を改善する方向に人々の行動を変えていくことを目指して、生物多様性の保全を普及啓発し、教育するための戦略を作りました。私たちは、ニンバ郡短期大学と一緒に普及啓発活動を行っています。また、今四半期の初めに「いづらか食べて、いづらか残す（Eat Some, Leave Some）」というキャンペーンを立ち上げ、人々の行動の変化を促しました。地元でトレーニングを受けた劇団がコミュニティ内での普及啓発活動を担っています。



煮炊き用のストーブの導入

農村の女性にクリーンエネルギーを使った煮炊き用のストーブを配布することで、コミュニティの気候変動と森林劣化に対する抵抗力を高めています。それによって、人々の健康状態を改善し、薪の収集が減り、調理にかかる時間が減り、薪とチャコールを購入するための家計の出費を減らすことができます。東ニンバ山自然保護区周辺の 12 のコミュニティの 300 人を超える女性が恩恵を受けています。



エボラ出血熱に関する普及啓発と教育の実施

リベリアは現在、エボラ出血熱発生の中心地です。これまでに死亡者数は3千人に近づきつつあり、感染率は上昇し続けています。政府及び他ドナーによる取り組みを支えるために、私たちはこのウイルスの流行を抑えるために社会への働きかけのキャンペーンを行っているパートナー機関と協力しています。エボラ出血熱に対する認知度を高め、私たちの現地パートナーとの関わりを維持するために、私たちは森林局、SADS、RICCE等とともに、プロジェクトの対象コミュニティにおいて、エボラ出血熱への認知度を高めるための「野生動物の肉の狩猟、消費、商業化とエボラ出血熱」と題する活動を行いました。私たちは、普及啓発のためのポスターを作り、数々の消毒剤や液状石鹸、そして100個以上の蛇口つきプラスチック製バケツを購入しました。これらは、プロジェクトの対象コミュニティの各家庭において健康及び衛生状態が向上するように配布されました。東ニンバ山自然保護区の公園長がこの取組を進めるチームを指揮しました。



課題

ダイキン殿の支援が現場での森林保全活動を進めていく上で非常に効果的であることが明らかである一方で、現在リベリアはエボラ出血熱の流行の中心にあり、この伝染病に苦しめられています。この伝染病は国の保健セクターに壊滅的な影響を及ぼし、政府が国家非常宣言を宣言するに至っています。CIは今回の流行の発生により現場の活動を一時的に中断し、プロジェクトの実施を遅らせています。CIは、エボラ出血熱の予防手段の開発とともに現場での活動を再開するための戦略を作り、プロジェクトが成果を生み出すためにパートナーとの協力を進める新しい方法を考えました。

プロジェクトの実施に係る他の課題として、ニンバ郡におけるリーダーの交代と政治的な不安定さが挙げられます。CIはこれらの変化に適応するメカニズムを構築しており、これからもニンバ郡での活動を続けていきます。

提言

エボラ出血熱の発生は、社会、経済、保健、生計を含むリベリア社会のあらゆる分野に非常に大きな影響を与えています。いつこの流行が収まるかの手がかりは掴めていませんが、現地のコミュニティはこの試練の矢面に立っています。この状況に対して、私たちはコミュニティへの関与とコミュニティへの参加を継続し、エボラ出血熱について直接的な社会活動を行っている他の機関とのパートナーシップを強化し、早期の現地での活動の展開に向けてエボラ出血熱対策の精緻化を通して準備していくことが堅実な方法であると信じています。

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。